



意思決定した内容を誰が実現する？

7月14日（日）日本在宅医療連合学会の1日目に参加してきました。私は2つのシンポジウムで登壇する機会を頂きました。時代の流れから意思決定に関する話題が多くあります。繰り返される希望しない救急搬送の現状を考えたとき、医療側も市民側も考えて行かなければいけません。意思決定のプロセスにはいくつかの段階があります。まずは意思表示、次に意思決定、そして意思実現です。つまり、最終的に決めた内容を実現するためには、関わる担い手が必要になるのです。いったい誰が？

大会1日目の朝のシンポジウムで小野沢先生のプレゼンが印象的でした。これから身寄りのない高齢者が200万人を越えていく時代がくるという内容です。結婚されず、兄弟もいない70から80代の方が、いよいよ人生の最終段階を迎えていきます。改めて問います。誰が決めた内容を実現するのでしょうか。その実際には、きわめて厳しい現状が待っています。そこで一句

意思決定 決めた内容 誰がする

今の施策では、意思表示と意思決定に光が当たりがちですが、問題は、その決めた内容を実現するための「まちづくり」が欠かせません。人の最期に関わると言うことは、決してきれいな話だけではありません。迷惑をかけたくない、自分が誰からも必要とされていない、早く死にたいと、負の感情を持つ人と関わる必要があるからです。今の施策だけでは、意思決定した内容を実現できない、絵に描いた餅になる危険性があります。たとえまもなくお迎えが来るといふ苦しみを抱えた人に誠実に関わる担い手が必要です。あと5年5ヶ月で2025年です。限られた時間かもしれませんが、私は、その担い手が増えていくことを夢見ています。

一緒に活動しませんか！
 厳しい道ではありますが、
 夢を追いかけましょう！

小澤竹俊

新刊の紹介

2000年からおこなってきた「いのちの授業」の活動があります。その中で扱ってきた内容は、ただいのちが大切であるということではありません。なぜ私だけ苦しむの？自分が誰からも必要とされていないと悩む苦しみとどのように向き合うかでした。エンドオブライフ・ケア協会の活動が医療・介護向けの人材育成から出発し、さらに、その活動の輪を広げるために、折れない心を育てるいのちの授業プロジェクト（OKプロジェクト）を開始するにあたり、新刊「折れない心を育てるいのちの授業」（角川書店）を出版することになりました。

自分が誰からも必要とされないと悩んでいた人が、自分を認め、人に優しくなれる…。たとえ人生が絶望に思えたとしても、希望の灯を見つけることができる…。

不登校であったり、引きこもりであったり、自分の居場所が見つからないと悩む人や、その人の支援にあたりたいと願う人に届くことを夢見ています。このテーマに関心のある皆さまへ届きますように！



診療実績

	2006-2018年	2019年 1月-3月	4月	5月	6月	2019年 計	総計
訪問回数	70,753	2,360	978	981	913	5,232	75,985
自宅永眠	2,252	64	21	21	24	130	2,382
施設永眠	349	13	8	9	7	37	386
在宅 (自宅+施設)	2,601	77	29	30	31	167	2,768
病院永眠	711	26	8	1	9	44	755